

THE DAY



NEWS LETTER

2025 / 6 / 1 Noboru Morishige

YouTube 森繁昇チャンネル



友達、親戚、家族、兄弟姉妹、これを読んでもくださる皆さん

2025年6月1日

皆さん、その後、元気になっておられるでしょうか？皆さんが元気になっておられることを心から願っています。

しかし、かりに、今、皆さんの健康状態が、どのような状態であったとしても、皆さんがこの世におられる限り、イエス・キリストのゴスペルの恵みは、心一つで、皆さんに、なくならない希望、天国での永遠の命を与えます。

この春、もう一回、ゴスペルを歌いながら旅を続けさせてもらいました。たくさんの新しい人に会わせてもらい、燃やされ、どうしようもないテンションの高いハヤクチで、何度もやってしまいました。反省と感謝！

そんな中、去年の冬の旅からこの半年、若い頃からとても親しかった友が、数人この世を去りました。彼らのことを考えていたら、去って行った私の家族や親戚、それに友達やミュージシャン、昔見ていた何人かのかっこいい映画俳優、それらの人の顔をしばらく思い出していました。そうしていたら、これから先、やらせてもらおう一つのコンサートは、また、これから先、会わせてもらおう一人一人は、「これが最初で最後かも知れない」と、思い出させてもらいたい！そして、イエス様から与えられた役割に奮い立たせてもらいたい！そう願いました。イエス様、よろしくお願いします。

歌の紹介——エッ？ またですか？

この1年くらい歌の紹介が増えていますが(笑)、

今回もまた。イエス様が皆さんを恵み、祝福してくださいますように。アーメン

歌「最初で最後」

これが最初で最後なら 君に何を歌おう
二度と会うことがないなら 何を君に歌おう
大地を駆けた若い日々か 労苦に耐えた日々か
雨に濡れて歩く朝か 泣き明かした夜か
限りあるこの世での 命果てる時も
のぞみ絶えることのない歌を 君に歌おう

目の前に広がる世界 望み託す君の
心は夢で羽ばたくよね 若い力燃えて
明日にかかる虹を目指し 飛んでゆくね 君は
誰の夢にもついてくる 「怖れ」という友と
自分を探しに旅に出て 見つけた宝物は
醜くけがれた この僕 愛する神の愛

明かりのない部屋にこもり 心のとびらさえ
探す力なくしおれた 君はなみだ 一人
怖れが部屋の隅で君に 襲いかかる時に
思い出してほしい歌は やさしい友の歌
自分を頼りに旅に出て 見つけた宝物は
か弱く哀れなこの僕 愛する神の愛

君が生きたため 命捨てた友のことを
この世に生きる限り歌おう 君に神の愛を
この世に生きる限り歌おう 君にイエスの愛を

嬉しいハプニング

もうずいぶん前でしたが、大阪でやったあるコンサートの中で「皆さん、何かリクエストはありませんか？」と言った時のことです。私は、自分の持ち歌の中で「リクエストがありませんか？」と言ったつもりだったのですが、私から見て、左の一番後ろで、腕にギブスをつけたお爺ちゃんがゆっくりと立って、『東京だよ、おっかさん！』うたってよ」と言った。「エーッ！」と、私！ドット笑いの会場！もちろん私、その歌、知らんかってえー、あやまりましたがぁ。それ以来、リクエストを募るのはやめました。

しかし、それからだいぶ？たった頃から、会場が静かすぎて、なんか元気が出たらいいなと思った時は、「皆さん、何かリクエストはありませんか？」と言って、そのすぐ後に、「ありませんね」と続けるようにしました。すると会場の皆がどっと笑うのです。もちろん私も、そうすることで、私が知らない歌をリクエストされないのを助かるのです。私は、これまで何年もコンサートの中で、時々そのようにしてきました。

そして、この5月の伊丹市の文化遺産「酒蔵」でのコンサートでのことです。「皆さん、何かリクエストはありませんか？」と言ってすぐ「ありませんよね」と言う1秒の間に、前の方に座っておられた女性の方が、大きな声で「ハイ!!」と手を挙げたのです。私、「ドッヒャー!!」たーまーげーたー!! その人は、私のそのやり口を知っていたんですね！ やられたぁ〜！ リクエストの歌は「二度僕のもの」。その歌を最後に歌ったのはいつだっただろうか？ 私の歌のレパートリーに何曲か長編曲がありますが、その中の一つ。リクエストしてもらったことは、マジ嬉しかった！ ありがとう！ それでは。

「二度僕のもの」

随分前に聞いた話だけど 君にも話したい
急いでいなきゃ立ち止まって チョット聞いて

いったら

これが最後のチャンスになるかも知れないからさ
聞いていってよ この話 そろそろ始めるから
「おいちゃん 早く始めてよ 待ってんだから」

ある村の ある少年が ある日舟を造ったのさ
小さなオモチャの舟だけど 自分だけで作ったの
さ 何日もかかって舟が出来たその夜は どんな
にうれしかったことか 次の朝が待ち遠しい
「そりゃそうだなあ」

翌朝 早く起きた少年は 川に向かった
長いひものはしを 舟の後ろに結んでから 川上
から流してみたよ ひもが伸びるところまで
スイスイ進むその舟は 僕の一番の友だち

ひもが伸びたら手繰り寄せ ひもが伸びたら手繰り
寄せ 時間の経つのも忘れて 大好きな自分の
舟と 来る日も 来る日も 遊んだのさ飽きもし
ないで そうさ この舟は僕の一番大事な宝物

ある雨上がりの朝 いつものように 川に向かった
どんより雲のその朝は 少し流れも速かった
しかし いつものように舟を浮かべて手繰り寄せて
ると 何かの拍子にひもが切れたよ さあ どう
しよう

「おーい 僕の舟よう 何処へ行くんだよう」
見失わないように 舟から目を離さないように
足もとも見ずに駆け出したよ
舟の後を追って 大きな穴があるにも気づかず
ただ無我夢中
転んだ拍子に見失ってしまった 舟は何処
「おーい 僕の舟よ 何処に行ったんだよう」

何日か経ったある日 父と隣り村へ行った
なくした舟のことがなかなか忘れられなくて
沈んだ気持ちで金物屋の角を曲がった時
何と!! 僕の舟を持った少年が歩いているじゃない!!
「お、おとうちゃん! あ あれ僕の舟だよ〜!」
びっくりしてすぐ後ろから大きな声で

「待ってくれよ！ 見せてくれよ！ 君が持ってるその舟を これはねえ 僕の舟なんだ 返して欲しい なくしていたのさ」

「やだよ！ これはこの前 僕が川で見つけた舟なんだ」

「そ そんなこと言わないでさあ これ 僕が作ったからわかるんだよ 返してよ」

「おれんだって 言ってるだろ これ おれんだよう」

「おとうちゃん おとうちゃんも言ってよ！ これ 僕んだよね」

「おまえ しつこいな おれんだって言ってるだろ あっち行けよ」

しばらく考えた後で少年は 財布を取り出して

持ってたお金をみなかぞえたら 320 円

「どうか この値段で売って欲しいんだが 有り金全部」「そうかあ それじゃ君に売ってあげよう」

話がまとまった

「おとうちゃん 売ってくれたよ」

うれしい うれしい うれしいよ 君にもわかるだろ

死んだと思っていた友だちを 見つけたのだから

有り金全部はたいも かまわない僕の友だち

抱きかかえた舟に語りかけた 帰り道

「おい 僕の舟よ お前 2 回僕のもんだよ ほら 最初 僕がお前を作ったろ そして今度はさあ 僕が自分のお金で ……また君を買ったからさ」

私は、この歌の話を 1990 年頃に聞いたと思います。この話は、ゴスペルそのままなのです。舟を作った子供はイエスで、舟は私たちです。イエスに造られた私たちは、悪魔の誘惑に負け、イエスから離れていなくなったのです。しかし、イエスは、自分が造った大切な私たちを愛してくださり、自分の全てであるいのちの代価（値段）で、悪魔の手から私たちを買取ってくださいましたのです。そして、私たちを、二度、自分のものにしてくださったのです。私はこの歌を歌う時、最後の「……そして今度はさあ……ぼくが自分のお金で……」その辺で、よく泣く、泣き虫野郎です。

西成救霊会館

5 月にまた西成の救霊会館でイエス様を歌わせてもらいました。ヨハネの福音書 5 章の、ベテスダの池のそばで 38 年間も病に伏せていた男の人の話をしました。話す前に、何年かぶりで「自由の始まり」を歌いました。

歌「自由の始まり」

親父かい … 死んだよ お袋は病院暮らしさ

弟の奴気が狂ったみたいによ

荒れ狂ってもう めちゃめちゃさ

泣いたさ長い間 人の目氣にして高架下

街行く人は皆幸せそうで 誰を見ても腹が立つ

網にかかった魚のように

罠にかかった鳥のように

あえぎつづけるこの短い人生は 何の為なのか

真昼でも手探りさ 闇の中を歩いてるように

金なんかないさ捕まるかもよ やばいことしたからさ

錆びついてるみたいだよ タバコの煙の中でよ

あてもなく吹き飛ばされる もみ殻のようだ

時がたつ

誰の奴隷でもない だた自分の奴隷なのさ

自由になれるのか 教えて欲しい本物を

希望どこから生まれるものなのか

自由いつから始まるものなのか

楽しみの中になんか無かった 笑いの中にも

考えもしなかったぜ悲しみと憂いの中になんて

自分が自分に死んだ時 見えたんだ 丘の上に

人を掛けたあの木さ 真ん中のあの木が

自由の始まりさ

鎖は解かれて かせは砕かれた
飼い主が羊のため 命を捨てたから
Amazing Grace !!!

今 泣いてる者が 君を支え
今 笑っている者が 倒れる時が来る
今 生きているものが 死に
死んだ者が 生きる時が来た

ヨハネ 5 章 2 ～ 9 節から

「さて、エルサレムには、羊の門の近くに、ヘブル語でベテスタと呼ばれる池があって、5つの回廊がついていた。その中に大ぜいの病人、盲人、足なえ、やせ衰えた者が伏せていた。（彼らは水の動くのを待っていた。主の使いが時々この池に降りて来て、水を動かすのであるが、水が動かされたあとで最初に入った者は、どのような病気にかかっている者でもいやされたからである。）そこに、38年もの間、病気にかかっている人がいた。イエスは彼が伏せているのを見、それがもう長い間のことなのを知って、彼に言われた。「良くなりたいか。」病人は答えた。「主よ。私には、水がかき回されたとき、池の中に私を入れてくれる人がいません。行きかけると、もうほかの人が先に降りて行くのです。」イエスは彼に言われた。「起きて、床を取り上げて歩きなさい。」すると、その人はすぐに直って、床を取り上げて歩き出した。」

以前、この箇所を引用して、私はメッセージをレターに書いたことがあります。今回は、そのメッセージは置いておいて、長い間、私にはどうしても分からなかったことを書いてみます。イエスは、この人が文句を言った後で、すぐに、「起きて、床を取り上げて歩きなさい。」と言ったの

です。私は、そのことが分からなかったのです。どうして、いきなり、イエスは、そう言ったのでしょうか。福音書（ゴスペル）の中で、この箇所以外で私が思い出す限り、癒された人はみんな、イエス様に「癒してください」「イエス様、あなたの御心のようにしてください」「私は、あなたが私を癒すことができると信じています」と、イエスが、神の救い主とすでに知って、イエスのところに来た人々です。でも、ここではそうではないのです。イエスに癒されたその人は、自分を癒してくれた人が誰なのかも知らなかったのです（この章の後半に書かれている）。私は、これまで、ここでの出来事のイエスの目的がどうしても分からない。何回読んでも分からなかったのです。今回も、私は、また、ここでの出来事を通してイエスが、何を言おうとしているのか、数日尋ねていました。夜中に目が覚めて、そのことが頭の中をぐるぐる回っているのです。何を習ってほしいのですか？のイエスへのお願いが朝まで続いても、心に示されないのです。そして、今日、イエスが言いたいことが示されたと、私は、確信しました。イエス様、ありがとう！イエス様は素晴らしい！

イエスが、私に、教えてくださったことはこれです。それは、これを聞く人に、またこれを読む人に希望を与えるためです。イエスはこの病人が「I have no one to help me」「私を助けてくれる人は、誰ひとりいません。誰も私を助けてくれないのです」と言ったすぐ後に、「起きて、床を取り上げて歩きなさい！！！」と言ったのです。すなわち、「わたしがいます！わたしが癒やします！わたしが助けます！私に來なさい!!」と、イエスは言われたのです。イエスは、今、全ての人に、そう言っておられるのです。

Noboru Morishige

ザ・デイ / 森繁 昇

〒744-0019 山口県下松市桜町2丁目17-24
FAX ▶ 0833-91-6492
E-mail ▶ thewindisblowing@hotmail.com
振替口座 ▶ 01330-4-93687 ザ・デイ

HP / thedaywill.com

Noboru Morishige
P.O.BOX 1666
KEAAU, HAWAII 96749 U.S.A
TEL ▶ 808-966-9252

